



いちご生産の工夫



1 夜冷処理

夕方から翌朝まで、冷房のきいた真っ暗な小屋に入れ、いちごの苗に秋がきたのを人工的に感じさせて、花芽分化※を早めるための技術です。本来の秋がくるよりも早く秋を感じさせることで、花が早く咲き、いちごが早く収穫できるようになります。(参考 いちごの栽培の1年)
※花芽分化とは、将来花になる細胞ができることです。



2 ミツバチの利用

秋から春にかけて、ハウスの中で栽培をしていると、外からハウスの中のいちごの花にやってくる昆虫がいません。そこで、ハウスの中でミツバチを放し、ミツバチが花から花へ活動することで、受粉が助けられ、いちごがきれいな形になります。



3 ウォーターカーテン

栃木県のいちごはパイプハウスで栽培されることが多いです。パイプハウスの多くは2重になっています。パイプハウスの内側に夜の間に、地下水をかけると、ハウス内を保温することができます。

